

赤痢アメーバ *Entamoeba histolytica* の糞口感染により生じる。このため特に男性同性愛者に感染の比率が高く日和見感染ではないが HIV 感染者では重要な疾患である。我が国での感染要因は①男性同性愛行為、②発展途上国への旅行、③知的障害施設での集団感染などであるが、最近、風俗店に勤務する女性患者が増加している。一方、風俗店で感染したと思われる男性患者も増加している。2003年11月に感染症法が一部改正され5類感染症に変更された。2006年4月からはアメーバ腸症と腸外アメーバ症の病型を合わせて報告することが義務付けられた。診断した医師は7日以内に最寄りの保健所に届け出る必要がある。

1 臨床症状

アメーバの嚢子は、経口的に感染した後、小腸で栄養体に変化し、大腸粘膜組織へ到達・組織内へ侵入する。発熱、下痢、血便など、赤痢様症状を呈し、いわゆる「イチゴゼリー」状の粘血便・血便が有名である。肝膿瘍などの腸管外アメーバ症は、虫体が粘膜下で脈管に入り門脈血流に侵入することにより生じる。肝膿瘍を来した場合発熱、右上腹部痛・打痛、ときに胸水、咳などが出現する。

2 診断方法

アメーバ性大腸炎の診断はその所見に精通した内視鏡医であれば内視鏡でほとんどの症例の診断が可能である。周囲に隆起を呈するいわゆるタコイボ様潰瘍・びらんが典型的所見とされている。検査室診断の検体としては病変部、糞便、血清が用いられる。アメーバ原虫は潰瘍の白苔部分に存在するため内視鏡生検は白苔を含むように採取する。PAS染色により明瞭となるが、陽性率は70%程度である。糞便中の鏡検は熟練が必要で1回の検査では40%の陽性率である。血清中の抗アメーバ抗体測定は85%程度の陽性率を示すため有用である。腹部超音波検査やCTで肝膿瘍の有無を確認することも重要である。

3 治療方法

メトロニダゾール（フラジール®）が第一選択薬として用いられる。重症のアメーバ腸症や腸外アメーバ症は1,500mg/日の10日間投与、軽症のアメーバ腸症では750mg/日の5日間投与する。メトロニダゾールは腸管からの吸収が非常に良いが、下痢が激しい場合や手術後には経口投与ではなく静脈投与が望ましい。注射製剤として、アネメトロ®が2014年9月に薬価収載されている（1回500mg（100mL）を1日3回点滴静注 難治性または重症感染症には1日4回まで使用可）。副作用として末梢神経炎、運動失調、頭痛、めまい、下痢、白血球減少などがみられる。また、アルデヒド脱水素酵素を阻害するため投与中の飲酒を禁止する。メトロニダゾール不耐例に対しては、チニダゾールが選択されるが、アメーバ感染症に対しては国内未承認である。

メトロニダゾールは腸管からの吸収が非常に良いが故に腸管内濃度が上昇せず、腸管内のシストに対しては無効である。そのため、シストキャリアや再感染を繰り返す患者にはパロモマイシ

ン（アメパロモ®）が併用される。パロモマイシンは2012年12月に承認されたアミノグリコシド系抗菌薬で、腸管からの吸収が非常に少なく管腔内の濃度が高くなる luminal drug である。メトロニダゾールが主に栄養体に作用するのに対し、パロモマイシンは嚢子に作用する特徴がある。

4 その他

HIV 感染者では再発例も少なくなく、発熱、腹痛など臨床的に再発が疑われれば腹部超音波、CT などを行う。治療は成功しても抗体は長期間陽性であり、抗体価高値が続いても治療の失敗ではない。画像上の正常化には2～20か月かかる。

無症候の症例でも、地域流行性のない地域では再感染が予防可能であることもあり、将来侵襲性の病変を作る可能性、他者に感染する可能性を考慮して治療対象とする。

■参考文献■

- 1) Bartlett JG et al. 2009-2010 Medical management of HIV infection.
- 2) Gilbert DN et al. The Sanford Guide to HIV/AIDS Therapy, 17th edition, 2009.
- 3) Recommendations from the Centers for Disease Control and Prevention, the National Institutes of Health, and the HIV Medicine Association of the Infectious Diseases Society of America: Guidelines for Prevention and Treatment of Opportunistic Infections in HIV-Infected Adults and Adolescents(2013.8)
- 4) 別冊 日本臨牀 新領域別症候群シリーズ 消化管症候群（第2版）下
- 5) 大川清孝ら． 感染性腸炎 A to Z 第2版，2012.
- 6) アネメトロ点滴静注液 500mg インタビューフォーム
- 7) 渡辺恒二ら． アメーバ赤痢：性感染症としての拡大と国内診療上の問題点について 日本エイズ学会誌 21：132-142，2019

（消化器内科 桂田 武彦 2020.09）